

# とやま 日季

にっき

富山の素顔の、素敵な日々。

爽やかに、鮮やかに  
暮らしたい。

---

2015 夏

とやま暮らしの素 川原隆邦さん、釋永 陽さん  
石井隆一のとやまと対談 <ゲスト> 西村幸夫氏

今日の朝ごはん 山田香織さん  
とやまの素「米」  
大切な場所、好きな時間おでかけリポート 高井友紀子さん  
いいもの手帖「FUTAGAMIの文具トレイ」 助野亜由美さん

くらしたい国、富山





## 真夏の涼感が、 うれしい地点へ。

◎立山町・立山黒部アルペンルート

まちの暑さを逃れて、標高2450メートル、立山黒部アルペンルートの室堂へ。立山駅からは立山ケーブルカーや高原バスを乗り継いでいくのも楽しいけれど、今回は新しいE'SORA 「立山パノラマバス」で、室堂まで一気に上がつてみたい。天井がガラス張りになつていて、そこから覗く青空、白い雲、大きな窓から望む美女平の原生林の緑も美しい。登山をしなくとも、誰もが北アルプスの懐に気軽に入つていけるのがアルペンルートの魅力だ。

室堂に着いたら、玉殿の湧水でほつ

と一息。平地の最高気温が33℃だとしても、室堂では約18℃。この涼しさ、清々しさこそが立山の夏の醍醐味だ。周辺では可憐なチングルマが咲き、こんな小さな植物が厳しい自然のなかで生き抜く不思議を感じる。室堂からさらに先の黒部ダムへ急ぐのもいいが、まずはみくりが池へ。紺碧の水面に映る立山や雲は、刻々と変化する絵のよう。ときにはライチョウも現われる。

立山黒部貫光・宣伝センター所長の真岸治郎さんが夏の室堂周辺でお勧めするのは、夕暮れどきのみくりが池や

満天の星だ。「立山が特に美しいのは、実は朝方と夕方。夕焼けに染まる瞬間の立山やみくりが池の風景はすばらしいです。そして、新月のよく晴れた夜に池の近くまで歩いていくと、静寂のなかで瞬く満天の星が本当にきれいなんです」日帰りも、通り抜けもいいけれど、宿や立山周辺で泊まって、家族や仲間と、ゆっくり感動を共有してみたい。室堂や立山周辺で泊まつて、家族や仲間と、ゆっくり感動を共有してみたい。上とは全く違った鮮やかさで、深く心に刻まれていくのだと思う。



優しい時間のグラデーション。  
あざやかな夏の色、

立山黒部アルペンルートは北アルプスを貫き、富山県の立山駅と長野県の扇沢駅を結ぶ国際山岳観光地。ケーブルカーやトロリーバス、ロープウェイなどで、気軽に大自然の中を旅することができる。立山弥陀ヶ原・大日平はラムサール条約湿地に登録されたほか、立山、剣岳の3つの万年雪は、現存する日本初の「氷河」に認定。映画『剣岳 点の記』や『春を背負って』、アニメ『おおかみこどもの雨と雪』の舞台にもなった。

©立山黒部宣伝センター TEL.076-431-3331 <http://www.alpen-route.com/>

とやま暮らしの素。  
もと

第3回

川原隆邦さん、  
釋永陽さん

立山町／和紙職人 陶芸家

伝統の可能性を広げる、  
あたらしい生き方を、  
自分たちの手でつくっていく。



のどかな田園風景が広がる富山県東部の里山で、越中和紙のひとつ、蛭谷和紙の技を受け継ぎ、あらたな創造を試みる和紙職人と、越中瀬戸焼の窯を守る陶芸家の夫妻に出会った。

## 畑を耕す」とから、和紙づくりは始まる。

富山県朝日町蛭谷(びるだん)で里山の冬の生業として作られてきた蛭谷和紙。五箇山和紙、八尾和紙と並ぶ、越中和紙の一つで国の伝統工芸品だ。

蛭谷では大正から昭和初期の最盛期には約120軒で紙を漉いていたが、時代の変遷とともに需要も作り手も減少。いまでは川原隆邦さんが蛭谷和紙の、ただ一人の継承者になつた。

川原さんの和紙づくりは、原料となるコウゾやトロロアオイを育てるところから始まる。夏場はおもに、工房周辺や住まいのある立山町、そして富山市郊外にある里山の畑で、原料づくりに汗を流す。富山湾を望む立山町の畑

では、生い茂る雑木を切り、草を刈る地道な作業を、地域の人の手も借りて根気よく続ける。いちど荒れてしまつた畑を再び開墾するのは大変な労力が必要だ。でも、黙々と作業をする時間は、紙漉きが始まる冬場に向けて、次の構想を練る大切なひとときでもある。

川原さんは富山県入善町生まれ。父親の転勤のため3歳からは千葉県や

インドネシアへ。帰国後、プロサッカー選手を目指しJFLでも活躍したが、力の限界を感じ断念。12年前、22歳で富山に戻り、将来を模索していたときに出逢つたのが和紙づくりの師匠、朝日町の故米丘寅吉さんだつた。

川原さんは米丘さんの人柄と生き様に魅了され、出逢つてまもない2003年から米丘さんに師事。しかし、米丘さんは高齢だったため、自ら手本を示すことはできず、川原さんは口伝えで和紙づくりを覚えていった。「和紙づくりよりも、一日中話しきることも多く、とにかくすごい人でしたね」

米丘さんが亡くなり、現在は一人で

蛭谷和紙の伝統を受け継ぐ。元来、和紙の需要は少なく、苦勞も多い。しかし、

数々の賞を受賞するなど、川原さんの技術の高さと熱意を知った様々な分野の人から、注文が入るようになつた。そしていまこそ、素材としての和紙の可能性を広げ、伝統を未来へとつなぐ取り組みが必要だと感じている。

妻で陶芸家の釋永陽さんは、富山県立山町生まれ。京都で学んだ後、立山町の越中瀬戸焼庄楽窯で、父の釋永由紀夫さんとともに作陶を始めて18年になる。桃山時代に起源をもつ越中瀬戸焼。江戸時代後期までは30ほどの窯元があつたが、その後、磁器製品の流通などで、多くの人は瓦業に転じ、大正期には一時途絶えていた。その後、

陽さんの祖父の釋永庄次郎さんが復興を図り、登り窯を築く。以来、立山町で取れる良質な白土を使った独自の作品を発表し、窯の火を守り続けている。

父の由紀夫さんの作品はスティーブ・ジョブズが愛したことでも知られ、弟の岳さんも陶芸家で富山市岩瀬で作陶。妹の維さんは金工作家として活躍する、まさに芸術一家だ。

川原さんと陽さんは出逢いは、東京の丸の内朝大学の地域プロデューサー

クラスの授業の一環で、東京と富山のメンバーがいつしょに、川原さんの工房を訪ねたのがきっかけだつた。川原さんの仕事振りを見た陽さんは、驚きとともに、大いに共感を覚えたと言う。

「古くから続くそのままの方法で和紙づくりをしていることにすごく共感できましたし、徹底してやっている姿に、5歳年下で若いのに、こんなにすごい人がいるんだと。絶滅危惧種に出逢つたような印象でした(笑)」。

私たちの共通点は、自然の素材に直接向き合つているところ。和紙づくりと土づくりは、実はとても似ています。

私は作りたいものに合わせて、土の細かさを変えるのですが、その手間は和紙も同じで、お互いの苦労はすごく共感し合えるところですね」

ふたりは3年前に結婚し、昨年春には大郎(たろう)くんが誕生した。現在、川原さんは立山町の住まいと朝日町の工房を行き来する毎日。陽さんは子育ての傍ら、実家の工房で作品づくりを始めた。ふたりの作品に注目する

多くの人から注文が入ると同時に、立山町での新たな試みが始まつてきる。

## 和紙の可能性を もっと、広げたい。

川原さんは2009年には日本民藝

協会賞を受賞するなど、その技術と作品の美しさは高く評価されている。しかし「伝統にこだわるだけではなく、さらに将来を見据えていきたい」と、賞を返上。オリジナル作品の制作や、ガラスと和紙の組み合わせなど、常に和紙のあたらしい可能性を探っている。

北陸新幹線開業に伴い建設された施設の内装用に、多様な和紙の注文を受けて制作した。リニューアルオープンした富山県民会館1階ロビーには、これまでに大きな作品が収められた。「柱には県木でもある立山杉の表皮を原料に混ぜた和紙を、壁面には大きな立山連峰が浮かび上がるような和紙を作りました。ガラスと立山杉の和紙の組み合わせで、富山らしい空間をつくりだそうと考えたんです」

そのほかにも、隈研吾氏設計の再開発ビルTOYAMAキラリ、北陸新幹線の黒部宇奈月温泉駅などの内装にも

川原さんの和紙が採用され、注目を集めている。また、ディズニーのくまのプーさんの蛭谷和紙のレターセットを手がけるなど、既存の枠を超えた、多方面からの注文が相次いでいる。

そしていま、立山町の里山で空き家だつた古民家を買い取り、自らの手で改裝中。あたらしい暮らしの場づくりを始めたところだ。結婚し、子どもが誕生したことでの、ものづくりへの思いにも変化があった。

「もちろん、頑張らないと、という気持ちと、子どもにも何か胸を張つて残せるようなものを作つていけたらという思いはありますね」と川原さん。

陽さんも、「将来、ものづくりをするかどうかは息子が決めるのですが、大きくなるまで、私たちとも関わりのある様々なものを見せたり、たくさんの人々に会わせてあげたい」と話す。

陽さんは、地元の陶芸家たちと「かなくれ会」をつくり、定期的にお茶会やカフェなどのイベントを開催。器を使いながら、直接、お客様と対話して、提案するという試みも行っている。

境が何よりだと考えている。また、暮らしの喜びは、特別なことではなく、普通のことができることだと言つ。 「ちゃんと丁寧に、掃除、洗濯、料理ができた日は、ああよかつたなと思いません。それができていないと、おでかけして、いろいろな場所に行つたとしても、暮らしの根本ができるいない自分が嫌になってしまふんです」

陽さんの器づくりの基本は、シンプルで使いやすいこと。いつも自分で使つてみて、器を使う人の気持ちを感じ取ることを大切にしている。器づくりには、陽さんのいまの思いも、暮らしもすべて表れる。だからこそ、作り手としての日常を大事にしたいのだ。

川原さんもいま、環境づくりに力を入れている。「和紙づくりが、1カ所で完結するのではなく、いろいろなところで広まっていってほしい。県内のいくつかの里山で、豊かな恵みを活かしながら、コウジやトロロアオイを育てているのも、そのためです。多くの人々にとって、和紙がより身近なものとなり、自分もやりたいと思う人が出でてくると、本当にうれしいですね」



かわはら たかくに、しゃくなが よう 富山県入善町生まれの川原隆邦さんは蛭谷和紙の伝統と技を受け継ぐ和紙職人。隆邦さんが手がけた和紙は最近では建築素材として富山県民会館ロビー、TOYAMAキラリ、北陸新幹線の黒部宇奈月温泉駅などに使用され注目を集めている。妻で富山県立山町生まれの釋永陽さんは、越中瀬戸焼庄楽窯の陶芸家。陽さんの作品は、県民会館8階レストランなどで使われているほか、D&DEPARTMENT TOYAMAでも販売予定。川原さんのホームページ <http://www.birudan.net/top/> 釋永さんのブログ <http://suyoyan.exblog.jp/>



富山県民会館1階ロビーは、立山杉を使った和紙とガラスを組み合わせた、森の中にいるような不思議な空間に。素材としての和紙の可能性を感じる場所だ。



本格的に紙漉きをするのは冬場だが、夏場は注文品の試作も。基本的には受注生産で、発注主の思いをもとに、独自の視点で切り取ったあらたな和紙を生み出す。



陽さんが手がけた器でお昼ごはんを。シンプルな美しさ、温かみがある器。使い心地は自分で確かめる。そして、いまは大郎くんの日々の成長が何よりの喜びに。



立山町の里山で空き家だった古民家を、自宅として改裝中。自分らしい和紙づくり、そして生き方を大切にしながら、和紙の可能性を拓いていきたいと願う。

# 今日の朝ごはん

砺波市

山田 香織さん



- 豆乳・青汁・石黒種麹店の甘酒
- 大場養蜂園のはちみつ
- はやぶさ珈琲
- 砺波産野菜と
- 砺波産にんじんのキャロットラペ
- 富山県産大豆のラタトウイユ

KAKI工房が手掛けたおしゃれなリビングキッチンに、パンケーキの香ばしい匂いがいっぱいに広がる。砺波市の山田香織さんの朝ごはんだ。

この主人と中学3年生の息子さんと暮らし、自宅で料理教室を主宰する。毎朝5時には起床し、教室の準備や朝食づくり、家事に忙しい。「でも朝食が大好きなんです。和洋どちらも作りますが、タンパク質をとり、体を温めることを大事にしています。できるだけいろんな食材を食べてもらいたくて、一日のなかでのバランスも考えますね」

この日は砺波産の米粉を使いオーブンで焼くダッヂベイビーというパンケーキ、「となみ野の郷」で購入した地元産野菜のサラダ、県産大豆のラタトウイユ、フランスの惣菜キャロットラペ、小矢部産卵の目玉焼きや、黒部のソーセージなど。育ちざかりの息子さんのため、食材豊富で栄養もたっぷり。南砺市の陶芸家、前川わとさんのお皿にメインを盛りつけた。

日々の料理のポイントは、「野菜はできるだけ旅をしない地元の旬のもの、調味料も地元で揃うものを選ぶ

## 《今朝のメニュー》

- 砺波産米粉のダッヂベイビー
- 小矢部産ハーブ卵の目玉焼き
- 南砺・砺波産のレタスや水菜のサラダ
- 黒部のソーセージ



やまだ かおり 福岡市出身。全日空のCAとして国際線勤務。退職後、2004年から料理教室「Magoo」を主宰。「各の郷土料理を食卓へ」をテーマに、地元で手に入る食材や調味料で新しい料理にチャレンジ。料理も盛りつけも、おしゃれ過ぎず、簡単に作れるレシピを提案する。

富山市栗巣野で家具を制作するKAKI工房が手掛けたおしゃれなリビングキッチンに、パンケーキの香ばしい匂いがいっぱいに広がる。砺波市の山田香織さんの朝ごはんだ。

この主人と中学3年生の息子さんと暮らし、自宅で料理教室を主宰する。毎朝5時には起床し、教室の準備や朝食づくり、家事に忙しい。「でも朝食が大好きなんです。和洋どちらも作りますが、タンパク質をとり、体を温めることを大事にしています。できるだけいろんな食材を食べてもらいたくて、一日のなかでのバランスも考えますね」

この日は砺波産の米粉を使いオーブンで焼くダッヂベイビーというパンケーキ、「となみ野の郷」で購入した地元産野菜のサラダ、県産大豆のラタトウイユ、フランスの惣菜キャロットラペ、小矢部産卵の目玉焼きや、黒部のソーセージなど。育ちざかりの息子さんのため、食材豊富で栄養もたっぷり。南砺市の陶芸家、前川わとさんのお皿にメインを盛りつけた。

日々の料理のポイントは、「野菜はできるだけ旅をしない地元の旬のもの、調味料も地元で揃うものを選ぶ

こと」。農家の方と直接話すこともあると言う。

全日空の国際線に勤務していた山田さん。国際色豊かな各国の料理と、砺波で出会ったアメリカ菓子、出身地九州の甘く濃い味つけなどが、日々の献立に活かされている。試作料理を家族に食べてもらい、意見をもらうことが多いそう。

「わーおいしそう」と言われるときがうれしいですね」。新しい料理にチャレンジすることで、子どもが食わず嫌いにならず、物事に挑戦する心を養つてもらえたならとも願う。世界の食文化と砺波の食材を活かした、探究心あふれる朝食が、家族の笑顔をつくっている。



## 富山の明日を観る

『ゲスト』

東京大学先端科学技術研究センター所長  
とやま観光未来創造塾塾長

西村幸夫氏

北陸新幹線が開業し、観光振興、産業活性化、魅力あるまちづくり、定住・半定住の推進など、新たな「とやまの未来創生」を如何に進めるかが大きな課題となっています。都市計画、まちづくりの第一人者であり、とやま観光未来創造塾の塾長でもある西村幸夫氏と名誉塾長の石井隆一富山県知事が、これらの諸課題について語り合いました。



西村 幸夫 にしむら・ゆきお

東京大学先端科学技術研究センター所長。とやま観光未来創造塾塾長。東京大学都市工学科卒。都市計画、まちづくりの第一人者。2011～13年、東京大学副学長。富山県景観アドバイザー。日本イコモス国内委員会委員長、文化庁文化審議会委員、同世界遺産・無形文化遺産部会会長、国土交通省国土審議会委員など。

石井 隆一 いしい・たかかず

富山県知事。東京大学法学部卒。埼玉県、石川県、北九州市、静岡県などを経て、地方分権推進委員会次長、自治省財政審議官、総務省自治税務局長、消防庁長官などを歴任。04年より現職。03年から06年まで早稲田大学大学院客員教授。主著に「元気とやま塾」入門―高志の国と世界を結ぶ「分権型社会の創造」など。

石井 西村先生には、「とやま観光未来創造塾」の塾長、「首都圏情報発信拠点に関する有識者会議」の座長などを願いしているほか、立山砂防の世界文化遺産の登録へ向けた取組みや、高志の国文学館、新県立近代美術館（仮称）の整備等へのご助言など、何かとご尽力をいただき、感謝申しあげます。

県民の半世紀近い悲願であった北陸新幹線が3月に開業しました。国に地方創生を重要政策としていただきた絶好のタイミングであり、県では、この新幹線開業と地方創生の2つのフォローの風を最大限に活かして、「とやまの未来創生戦略」の策定を進めています。先生には、5月に設けた「とやま未来創造県民会議」の委員もお願いしており、大所高所からのご助言をいただければと思います。

西村 富山県は本当に魅力的な地域であり、大いに情報発信することが大事です。自然景観が雄大で美しく、建物も立派で住みやすく、地域環境も子育てしやすいといえます。

石井 富山県では、持ち家率の高さなどは全国1位ですし、国の学力・学習状況調査では学力も全国トップクラスです。福祉の面でも、看護師だった惣万佳代子さん達が、高齢者も障害者も子ども達も皆大家族のように支えあって生きるとの理念の下に、20年前に開設した「富山型デイサービス」を、県や市町が支援し、今では全国に普及しつつあります。また、昨年策定した「富山県ものづくり産業未来戦略」に基づき、医薬品産業（2013年までの8年間で生産金額が約2.3倍と

なり全国3位に躍進)の更なる発展や、次世代自動車、航空機、ロボット、環境エネルギー、予防・診断薬等の分野への進出、飛躍に向け、懸命に努力しています。さ

らに、数年前から、富山県を映画のロケ地として売り出しましたが、木村大作監督の『剣岳点の記』、故高倉健さん主演の『あなたへ』、アニメの『おおかみこどもの雨と雪』などのほか、インド映画の28年振りの日本ロケの富山県への誘致など、相当の成果が出てきました。

**西村** 県の富山駅連続立体事業でライトレールなどの南北一体化が実現します。新幹線で富山駅に降りると、デザインにこだわった市内電車が目の前に停まつていて、それに乗つて街に出ることができます。こんな風景は日本に今までなく、本当に未来的な風景です。

また、富岩運河環水公園、あれだけの水の豊かさと広がりは、他に例がありません。将来的に富山駅の南北が繋がり、デザイン的なストーリーを持てば、都市のイメージが明確になつてくると思います。

**石井** 環水公園の昨年の利用者は、この7年で約2倍の140万人に達しました。新艇「Fugan」が、新幹線開業後に就航しましたが、大変好評で、富岩水上ラインの乗船客は、この3ヶ月間で対前年約2.4倍となっています。新県立近代美術館(仮称)も、再来年の初秋までには環水公園西地区に完成予定です。ピカソ、ポール・デルヴォー、ジャスパー・ジョーンズなどの20世紀の

代表的な名画の鑑賞はもとより、従来よりもデザイン振興の観点を大切にし親子連れが楽しんで学べる場にもしていきたい。また、数年来、三宅一生さんや、青柳正規さん(現文化庁長官)が提案されてきた国立デザイン美術館構想との関係にも留意しながら取り組んで

まいります。

**西村** 富山駅に近い文教ゾーンにある旧知事公館を高志の国文学館として再生、整備されたのも、とても良いお考えでしたね。塀を切り下げ、庭園を開放的で親しみやすくするなど、本当に素晴らしい施設になりました。

**石井** 平成24年7月に開館した高志の国文学館への入館者数は、満3年を迎えたこの7月中旬に40万人に達しました。これは、お手本としてきた東京の世田谷文学館の約2.5倍のペースであり、大変うれしいことです。今年4月には、日本建築家協会の優秀建築賞にも選ばれました。西村先生には、プロポーザルの審査委員長をお務めいただき、懇切なご助言も賜わり感謝しています。今後とも魅力ある企画展やイベントを展開し、県内外の皆さんに、より一層親しまれ愛される文学館にしていきたい。

また、地域の活性化のため、最近、県内各地で、住民の方々が、意欲的に魅力あるまちづくりに取り組んで下さる事例が増えているように感じ、心強く思っています。

**西村** とやま観光未来塾の塾生の中でも、例えば、新しい観光スタイルとして、山で前衛的な料理屋やお蕎麦屋を始めた人がいます。こうした取組みの芽は、全国各地にある気がします。福岡県の筑後地方の山沿いに「山苞(やまと)の道」という街道がありますが、農産物の加工をしたり、魅力的な農家レストランができるアーティストも住んでいます。単なる農業ではなく、付加価値がつくことで、皆さんが誇りを持ってやつています。こうした活動の場は、景色の良いところがベースとなっています。富山県にも、適地が多いと思います。

**石井** 国の調査によると、東京在住者の約4割の人が、「地方への移住を検討したい」と回答されています。大都市は刺激があり、楽しい面もありますが、ワーク・ライフ・バランスや生活の質を大事にしたいと、若い人を中心、考え方が変わりつつあるのではないかでしょうか。

**西村** 世論調査でも、3分の2の若者は物質的な満足ではなく、心の満足を求めています。高い家賃を払つて満員電車の中で過ごす選択肢を選ぶ人は、少なくなつてきているような気がします。

**石井** 北陸新幹線開業により富山県のポテンシャルが大きく高まり、各地域の特性を活かした充実感のある仕事、クリエイティブな仕事、地域とのコミュニケーションのある暮らしなどをうまく準備しまッチングできれば、すごく魅力がある移住先になると思っています。

地域の皆さんにとっては、見慣れた風景、暮らし、仕事であつても、大都市に住む人にとっては、新鮮で魅力的なことが少なくない。例えば、朝日町の笛川地域にはチエコやスイスの方が移住され、高岡市の金屋町では空き家の受入れ体制を整えたところ、カフェの経営、銅器販売など3組の入居が決まりました。移住の方々も意欲的ですし、住民の皆さんも元気が出て、まちに希望や活気が生まれます。

富山県では、5月に、移住相談窓口「富山くらし・しごと支援センター」を東京有楽町のふるさと回帰支援センター内に開設しました。富山県はこのセンターが調査した移住希望先ランキングで、47都道府県の中で3年前は29位でしたが、ここ2年は連續トップ10に

## 増える富山県への移住希望者



守り発展させてきた技術」や「家と景観はもちろん全ての環境が素晴らしい」といった高い評価をいただきました。その良さを次の世代に伝えていくためにも、最近、定住者を増やす取組みに力を入れています。

西村 南砺市の依頼を受け、「五箇山世界遺産マスター

プラン」の策定に取り組んだ際、一番の課題は、五箇山には仕事がないため、若い人が街に出て行ってしまう

ということでした。しかし、私は、生活は不便な面があるが、魅力的なところなので、一定の仕事があれば、住みたい人もいるだろうと思つていました。

入っています。新幹線の開業で距離的ハンディが無くなりましたが、地域の魅力をしつかり磨いて、さらに上位を目指していきたい。

西村 そうですね、広く日本全体をターゲットとして考えた場合、毎年、0・01%の人が関心を持つてくれれば数としては十分です。全国や国外に十分にアピールできるものを富山県は持っていると思います。

また、都会では、近所付き合いが希薄なため、子育ての面や災害が起きたときに不安です。富山県のしつかりとしたコミュニティは大きなセールスポイントになると思います。

トを豊かにすることになります。富山県では、知事のご努力で、有識者を招いての国際シンポジウムを数次にわたり開催されるなど、世界に向け情報発信をされています。次の暫定リストの改訂の議論の中では、かなり高い優先順位になるのではないかと思います。

## とやま観光未来創造塾

石井 4年前に、とやま観光未来創造塾を立ち上げました。が、塾長をお引き受けいただいた西村先生や山田、渡辺両教授などのご尽力で、「元気でやる気があり、おもてなし力を身につけた人材が育つてきました。今年は、外国人旅行者向けの対応力のある人材育成のため、グローバルコースを新設しました。

西村 創設から4年間で、約300名の修了生が生まれました。観光は、市町村の中で完結していませんので、県レベルでの取組みは、とても効果的だと思います。

観光は、人の魅力によって、地域の魅力が伝わる面が大きいため、人を育てることは重要です。また、観光客は、一つの観光地だけを見に来るわけではないので、観光未来創造塾の人的ネットワークを使って、あちらもいいですよと、お互いの観光地を紹介することで、1足す1が2以上になります。

石井 相乗効果が發揮できますね。当初の期待以上にいい効果が出つつあると感じています。温泉街の旅館、ホテルの人たちと周囲の農家の人たちが同じ地域で働いているのに、これまででは、お互い面識が無いことが多かった。幸い、この観光未来創造塾の場で出会って、ネットワークもできてきました。

## 世界遺産の五箇山合掌造り集落と立山・黒部

石井 五箇山の合掌造り集落が世界文化遺産に登録されて今年で20周年です。モントリオール大学の

キヤメロンさんなどから、「厳しい環境から自分たちを

西村 日本の防災技術は世界トップクラスですし、特に立山砂防は、世界に類のない規模のものが、自然と調和する形で存在しています。世界遺産リストはある意味、世界の文化の多様性を示すリストです。防災、自然、文化の面から、立山・黒部を追加することは、リス



また、ホテル、旅館、民宿などの朝ごはんが物足りないとの声があつたことをきっかけに、「とやまのおいしい朝ごはん」キャンペーンを実施しました。これも、観光未来創造塾の修了生たちをはじめ、温泉街の旅館、地域の農家など様々な人達が取り組み工夫した結果、各地の旅館などでおいしい朝食が出るようになつたとの評価を伺い、うれしく思っています。

**西村** 朝ごはんはこんなものだという固定観念を破り、もっと工夫ができると思えば、どんどん進化していくのだと思います。

## 世界で最も美しい富山湾

**石井** 富山湾は昨年10月、ユネスコの支援する「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟がクラブ総会において全会一致で承認されました。これを記念して海岸線のオープニングイベント「富山湾岸サイクリング2015」

も開催しました。大会では、世界最大の自転車メーカーG-I-A-N-Tの劉会長のご令嬢で台湾サイクリング文化振興協会の劉執行長をはじめ、台湾からも約30人の方に参加いただきました。おもてなしの気持ちを表わすため、私も、ロードバイクを購入し、半世紀ぶりに自転車に乗りました。初めは、10キロぐらいのつもりでしたが、海王丸パークから氷見まで、約20キロをスムーズに楽しく走りました。サイクリングの魅力を実感し、県民の皆さんのがんばりのためにも、観光・交流のためにも、サイクリングの振興が望ましいと感じました。

また、ボートやヨットを停泊できる新湊マリーナを大幅拡充の予定です。湘南や伊豆半島では、マリーナの使用料が年間300万円かかるケースもあるのですが、富山県では30万円程度です。東京から湘南や伊豆半島に車で行くよりも、新幹線で富山に行く方が安心で利便性が高く、ボートのオーナーの方々のニーズが相当にあるのではないか、と考えています。

**西村** 富山湾は海岸線が湾曲していて、対岸の景色が立体的に感じられます。そして、湾のこちら側も向こう側も同じ富山県です。このような景色は、世界を見渡しても、多分、富山県だけのもの。山と海、一つの地域としての一体感が感じられ、とっても魅力的です。

## 富山県の魅力の全国への発信

**石井** 西村先生に座長をお務めいただいた「首都圏情報発信拠点に関する有識者会議」のご提言を踏まえ、種々、調査・検討の上、新たなアンテナショップを、東京・日本橋の三越本店新館の隣接地に、来年春頃を目途

に開設することとしています。特に、どんな機能や運営に力点を置くべきとお考えでしょうか。

**西村** 富山県はなんと言つても、魚を中心とした新鮮な食材が魅力ですから、東京の方々にアピールできる本格的な和食レストランがあればよいと思います。また、他にはない富山ならではの食材や伝統工芸品を取り扱い、富山の日常の「上質なライフスタイル」を発信し、富山らしさを実感できる場としてほしいと思ってます。

**石井** 首都圏などで、富山県の魅力をアピールするためのアドバイスをいただきたい。

**西村** 合掌造り集落に限らず、山や海などの普段の富山での暮らしをきちんと情報発信することや、富山県に実際に来てもらい、体験ツアーで実感してもらうことが大事です。例えば、お坊さんのために、集落で一番いい食材を準備して、色々な料理をつくる報恩講料理という伝統がありますが、こうした魅力を、実際に体験・感してもらい広く伝えることが大切です。

山や海などの美しさや、各地の伝統文化の多様さ、奥深さといった魅力を、様々な方法で体験してもらえるよう工夫していくことが、全国に向けての富山県のアピール、さらには富山の地方創生につながると思います。

**石井** 新幹線開業と地方創生の二つの好機を最大限に活かし、とやまの新しい未来を切り拓き、活力と魅力あふれるふるさとを是非とも創生したい。県民の皆さんのお恵みと力を結集して取り組みますが、西村先生には、引き続き、大所高所からのご指導、ご助言をいただきまますようお願いします。

## 黒部峡谷 パノラマ展望ツアー！

黒部峡谷トロッコ電車終点「欅平駅」のその先へ、これまで一般公開されていなかった関西電力施設内の「専用列車」や「トンネル」、「豊坑エレベーター（高低差200m）」の体験と、周辺の白馬鑓ヶ岳、唐松岳などの北アルプスの山々が間近に展望できるルートを散策する、黒部峡谷欅平の新しい観光スポットです。電源開発の歴史と360度パノラマで広がる絶景を体感してください。



お申し込み：株式会社 観光販売システムズ  
TEL.052-589-0200 ホームページ <http://kurobe-panorama.jp/>  
一般社団法人 黒部・宇奈月温泉観光局 TEL.0765-57-2850

## 「美しい富山湾クラブ」設立 会員募集中！

富山湾が昨年10月、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟したことを機に、民間応援組織「美しい富山湾クラブ」が設立されました。クラブでは、今後、富山湾の環境保全や魅力発信に向けたさまざまな活動を展開するため、会員を募集しています。皆さんもクラブの活動にぜひご賛同いただき、世界が認めた富山湾の魅力のブラッシュアップに参加してみませんか。



お問い合わせ：「美しい富山湾クラブ」運営事務局  
TEL.076-461-7027 ホームページ <http://www.toyamabay.club>

口ほおばると、甘味がじわっと  
富山のお米の代表は、もつち  
り、つやつやのコシヒカリ。ひと  
く豊富な水が、お米を育む大地  
を潤していく。

江戸時代から各地に広められ、  
いまも全国各地のおいしいお米  
として育てられている。

「米」と  
やまの  
玉系

口いっぱいに広がり、ほつとす  
るような幸福感を味わえる。



富山の食といえば、富山湾の  
海の幸、そして、おいしいお米。  
点在する家のまわりに田んぼ  
が広がる散居村の風景のなか、  
3000メートル級の北アルプ  
スや周囲の山々から流れる冷た  
く豊富な水が、お米を育む大地  
を潤していく。

富山県は種もみの産地として  
も知られ、全国の約6割を生産。  
露切りの風で丈夫に育つ良質  
な種もみは、売薬さんによつて  
江戸時代から各地に広められ、  
いまも全国各地のおいしいお米  
として育てられている。



大自然の中の秘湯へ。

◎河原から温泉が湧き出しています。

トロッコ電車の終着・欅平駅から歩いて約50分、黒部の秘湯「祖母谷温泉」に行ってきました。野天風呂はすぐ近くの河原に湧く源泉を引湯し、掛け流しています。黒部川の瀬音を聞きながら湯船に身を沈めれば、心のコリまで解れるようです。



ブローチ作りに挑戦中。

◎作る喜びと、使う楽しさを教えてくれます。

手から生まれるものづくりに惹かれ、剣岳の麓にある上市町の「陶工房野村」で陶芸を習っています。不思議なもので、土に触れたり手作りの器でお茶を飲んだりすると気持ちが和らぎます。体験教室も行われていますよ。



◎サイクリング日和が続きます。

石川県境の氷見市から新潟県境の朝日町にかけて、全長88kmのサイクリングコースが整備されています。潮風を受けながら走れる海岸線沿いの道が、景色が素晴らしいと最高に気持ちよかったです。ブルーのラインを印に。



センスの高さが光る  
仕事ぶり。

◎使い込むほどに、新鮮な味わいが増します。

キャンバスを柿渋で染め、洗いをかけて縫製。「P.T WORKS&DESIGN」のバッグは、富山市のお店アトリエで釣谷真実さんが手作りしています。奥深い色や質感、大人っぽい辛めのデザインが大好きで、お出かけに愛用中です。



写真と文:高井友紀子さん

富山市在住。雑誌・WEB等の企画や取材の仕事をしています。風土が育んだ富山の文化に触れるたびに、地元の奥深さを感じます。また「ニューカラー研究会」に所属し、地域活性化につながるイベント等に参加して撮影協力も行っています。



夏の定番おやつ。

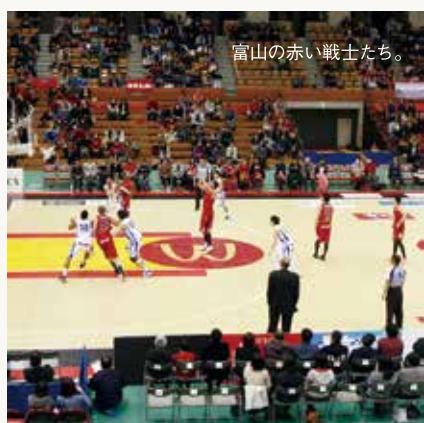
◎ずっと残したい郷土の味です。

湧水群で有名な黒部の夏に「水だんご」は欠かせません。富山県産コシヒカリの米粉に片栗粉を合わせて作るモッチリとした白玉に、きな粉をまぶして味わいます。今年からは、お隣の魚津市にある「魚津ご城下の台所 藤吉」で毎週土曜に作られています。



◎日本一深いV字峠を疾走。

宇奈月駅から欅平駅までの全長約20kmを、黒部川に沿うようにして走行する「黒部峡谷トロッコ電車」。窓のない車両に乗車すると雄大な自然が目の前に広がり、爽やかな風が草木の香りを運んできます。暑さを一瞬にして忘れさせてくれますよ。



◎地元を熱くする、富山グラウジーズの快進撃!!

bJリーグ所属の地元チーム「富山グラウジーズ」のホームゲームを観戦しました。チームは年々強くなり、5年連続でプレイオフに進出するほどの実力を持っています。ブースターの大声援が、選手の闘志を燃やしています。



◎大人も子供も楽しめる、とておきの場所。

氷見市は『忍者ハットリくん』『笑うせえるすまん』などの作者の、藤子不二雄Ⓐ先生が生まれた場所です。車で通りかかった商店街には「まんがロード」があり、おなじみのキャラクターのモニュメントが飾っていました。

富山のあの人聞く

## いいもの手帖【三】

紹介する人 助野亜由美さん

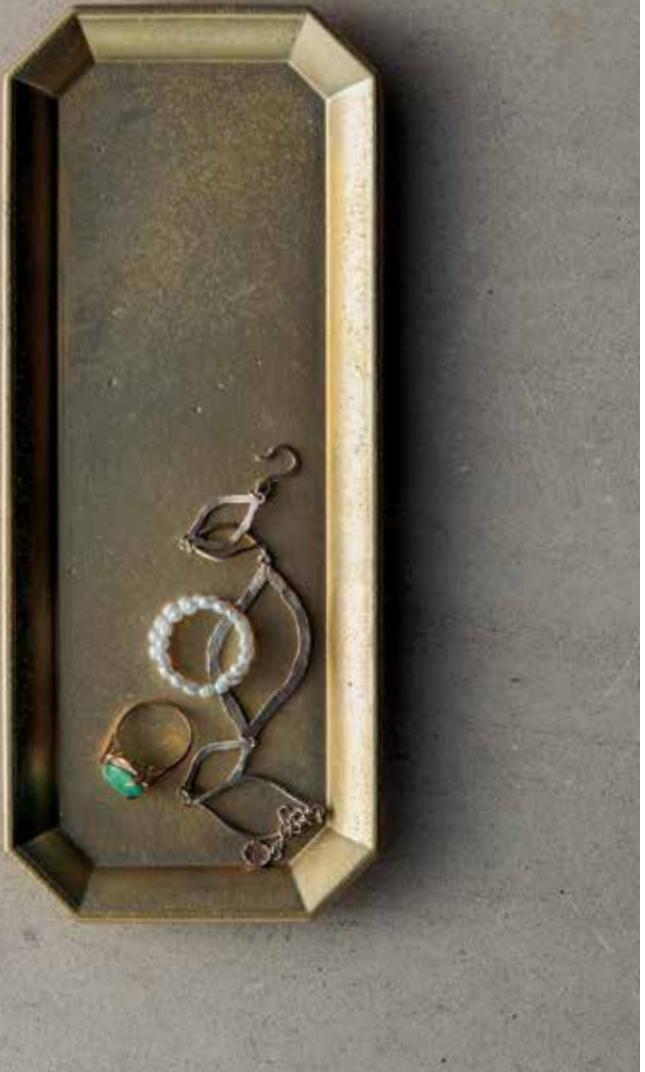
鎌物のまち高岡には、いいもの

高岡市生まれ。東京で就職し、複数のインテリアショップに勤務後、2008年に株式会社フォーユアアンビエンヌのに入社。現在はチーフ・バイヤーとして、独自の視点で国内外からアート性の高い家具や小物などを厳選し、心豊かな暮らし空間を提案。店内のディスプレイも担当する。同社では家具や小物に合う、住まいの提案も行っている。  
<https://sukeno.com/>



同じく高岡のFUTAGAMIの  
真鍮の文具トレイだ。

「真鍮は使うほどに味わいが増し、経年変化を楽しむ素材。祖母や母からもらった宝石なども置いて使っていますが、どちらも、時を経ても変わらない美しさがあるようになります」



時を経て、より美しく変化し、味わいが深まるものが好き。

「研磨や塗装をせず、鎌肌を温かみのある自然な風合いで出すのは難しい技術。また、できた時は完成品ではなく、使い込むほどに艶が出て『熟成』する過程を、ぜひ楽しんでいただきたいですね」

FUTAGAMIは仏具を製造する株式会社二上のオリジナルブランド。鎌肌を生かした独自のデザインが人気で、海外の有名レストランや国内の名門ホテルでも使われている。代表取締役社長の二上利博さんは語る。

かみのある自然な風合いで出すのは難しい技術。また、できた時は完成品ではなく、使い込むほどに艶が出て『熟成』する過程を、ぜひ楽しんでいただきたいですね」